

街頭写真から「色に対する気分」を見ることにする。

**A: 目立つカラー:** 身につけているアイテムの中で彩度の高い色動向

**B: 着装カラー:** 着ている服の色動向

**C: アイテム別動向:** カラー中心にデータから見た特徴、街頭写真など

注意: 気温変化により、コートの数値に差が出る関係で、他アイテムとの比較に影響がでます。  
以下のデータはコート抜きで作成しています。  
10月下旬撮影ですが、11月編としています。

**A: 目立つカラー (服以外含む)**

身につけているアイテムの中で、彩度の高いカラー1色を目立つカラーとする。

(同彩度は明るい色優先、柄物などはその中で分量が多く目立つ色-色相では彩度の高い暖色系優先)

(トーンマップ対応記号順では、01v>02p>03m>04dp>05f>06g>07dk>08W>09GY>10BKとなる)

概要

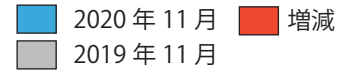
日時 2020年10月25日 20度

2019年10月31日 22度

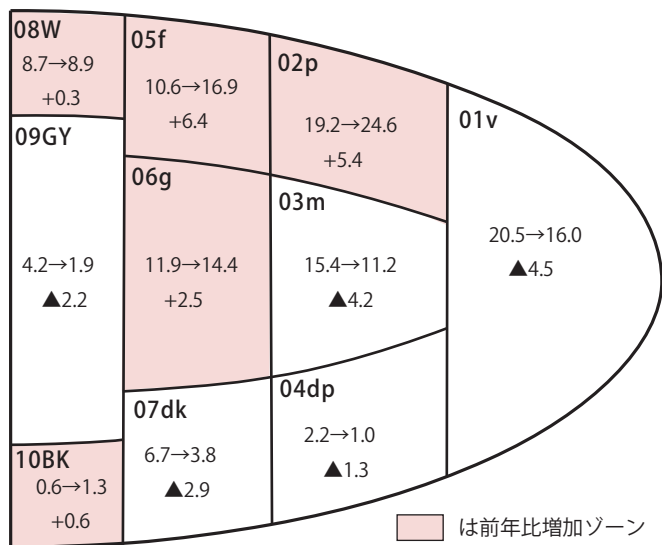
場所 神戸元町(神戸大丸近く)

対象 20-50代女性

棒グラフ対応カラー



目立つカラーのトーン増減



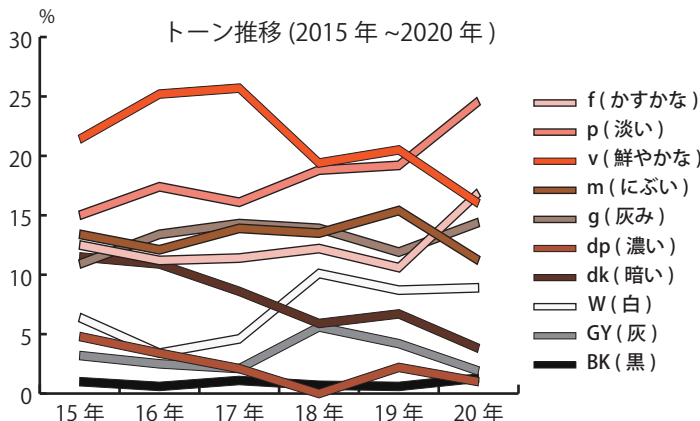
f かすかな、p 淡い方向がリード  
反対に、彩度の高い方向、暗い方向が減少

増加で g(灰み)、W(白)、BK(黒)が続く  
いずれも明るい方向と灰み方向、ニュートラルの白、黒が伸びている

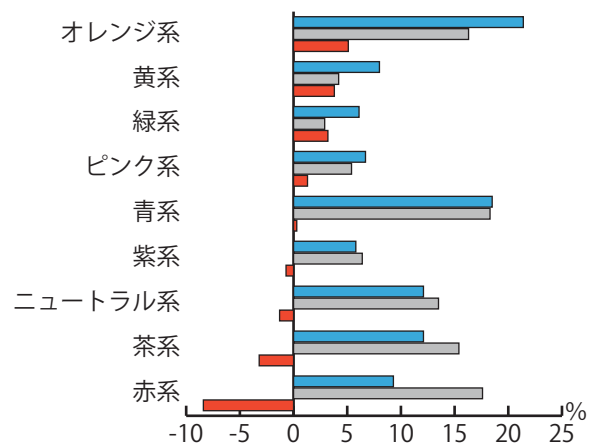
反対に、m(にぶい)、GY(灰)も減少で続く

下記グラフは増減でなく、量的な推移を見るもので、v(鮮やかな)をp(淡い)が、m(にぶい)をf(かすかな)が初めて逆転して上回っている

・目立つカラーの設定上、(服以外も含める関係で)、低彩度方向、暗い方向は量的に少なくなる(高彩度方向、明るい方向を優先)



色相集約した目立つカラー増減 (増加順)

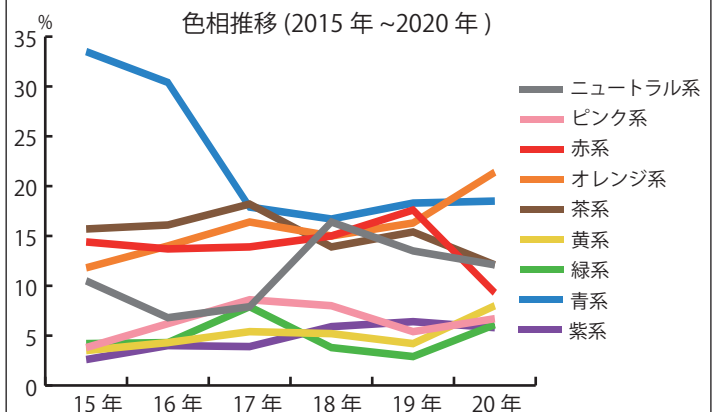


オレンジ系、黄系、緑系がリード  
反対に、赤系が大きく減少

増加でピンク系が続く  
青系、紫系、ニュートラル系は変化が少ない  
反対に、茶系が減少で続く

下記グラフは増減でなく、量的な推移を見るもので、全体に青系が多いことが目立っている。これは、ジーンズの青系がp、mトーンに多いことによる。その他、靴はmトーンの色系が多く、柄物は、赤系、オレンジ系が彩度的に目立つことによる

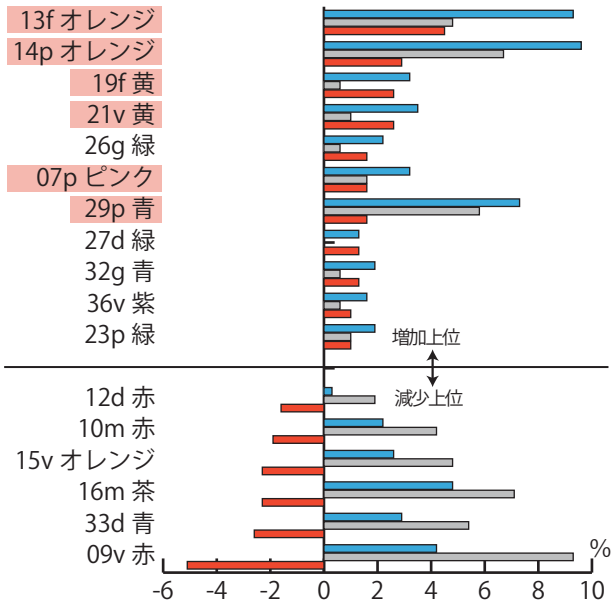
ニュートラル系が伸びる時は、無彩色のみの組み合わせが多いことになる。20年は赤系に変わって、オレンジ系が量的にも多く目立っている



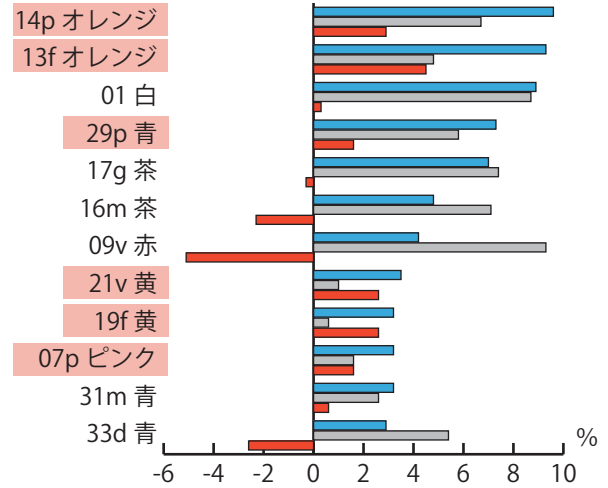
詳細な目立つカラーを、増減順位と量順位から見ることにする

■は増減、量共に上位カラー

目立つカラー増減(上位)



目立つカラー量的に多い順(上位)



**明るいオレンジ、黄、緑がリード**

オレンジ、黄のfが、白の発展形として人気  
pはオレンジ、ピンク、青、緑と幅広くリード  
緑はg、d、pと量的に多くはないが、トーンの広がり注目  
vは黄がリード、紫が続く

反対に、減少は赤系に多く、v>m>dの順に多い  
増加上位のオレンジもvは減少  
青はp、gは増加だが、dは減少2位

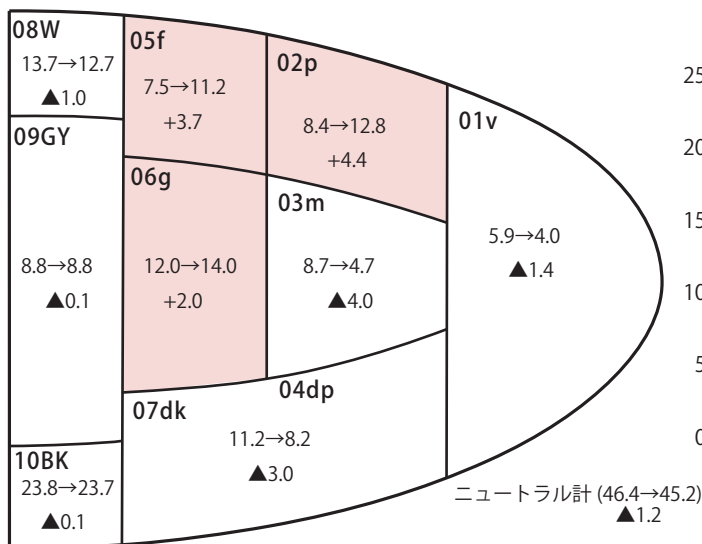
**オレンジ、黄は量的にもリード**

p&f オレンジは増加、量的にも多く目立つ  
青はp、m、dと量的に多い(ジーンズ影響)  
茶はg、mと量的に多い(服以外の靴の影響)が、前年比は減少  
白は増加は少ないが、量的に多い

m 茶、v 赤、d 青は量的に多いが、左増減での減少上位3色に対応している

**B: 着装カラー** 街頭で見た印象に近い着装カラー(服のみ)

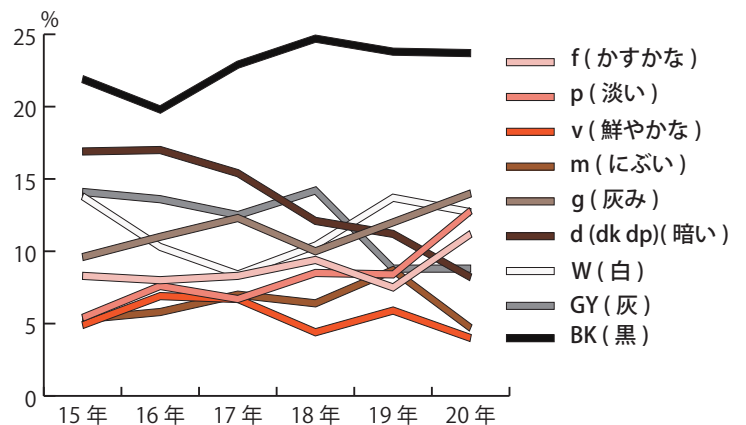
着装カラーのトーン増減



**明るく低彩度方向のp、f、gがリード**

目立つカラー同様、白に近いかすかなトーン中心に、明るい方向と灰み方向に広がる  
中間色、ダーク方向が減少で、鮮やかなカラーも減少で続く  
量的に多いニュートラル系は継続となっている  
白は少し減少も、白周辺のfに発展しており、注目される

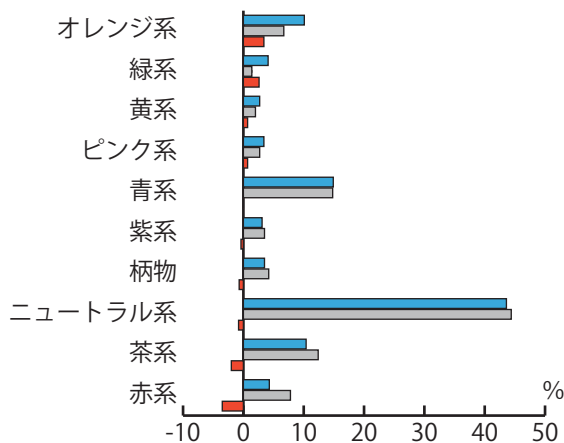
トーン推移(2015年~2020年)



**黒は安定推移、pは増加傾向**

黒は他カラーを引き離し、1位を安定的に推移  
増加色相を見ると、pが増加傾向、gとfも少し伸びている  
反対に、減少傾向を見ると、dが15年から減少傾向で目立っている  
vは少し減少傾向となっている  
灰は18年をピークに減少、mは19年をピークに減少  
白は17年より増加傾向だが、20年は停滞している

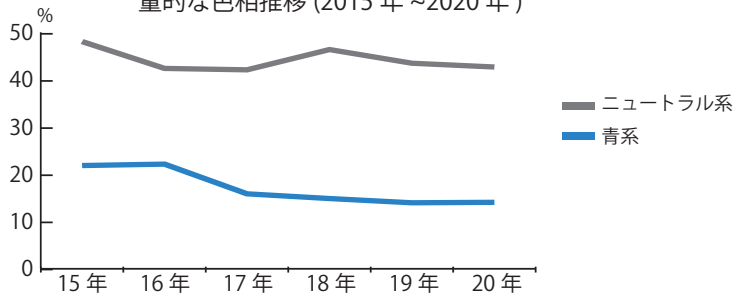
### 色相集約した着色彩色増減（増加順）



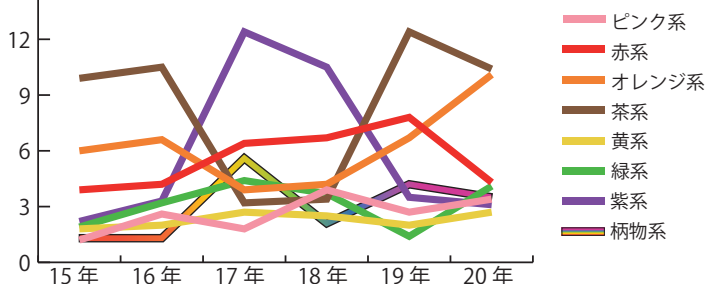
#### オレンジ系、緑系が増加、赤系は減少

ほとんど目立つカラーと同様な傾向となっているが、緑系が黄系と入れ替わって2位となっている  
 着装で登場した柄物は少し減少  
 目立つカラーとの違いは、量的な点が大きく異なる  
 目立つカラーは服以外ふくめ、色返り傾向を見るものだが、着色彩色は服限定で見た服の色がすなおに表れている  
 増減傾向は量的にすくなくとも、時代の色変化が現れており、トレンドカラーの反映と見ることが出来る

### 量的な色相推移 (2015年~2020年)



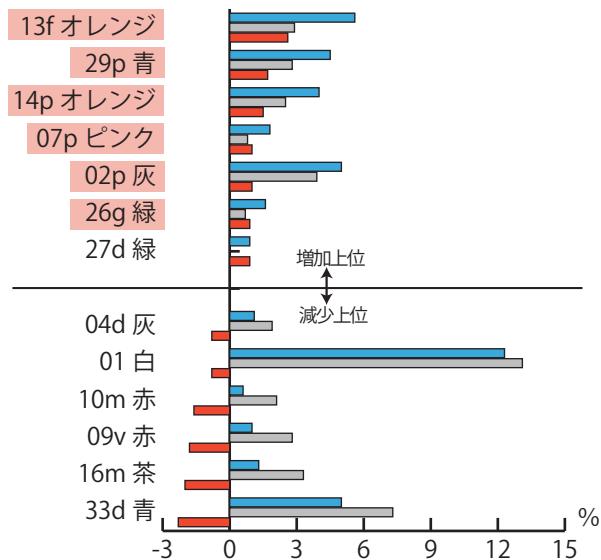
### ニュートラル系、青系以外は増減が分かるよう縮尺を拡大



ニュートラル系は45%前後、青系は18%前後で推移している  
 それ以外の色相は少ないので、グラフを分けて見ることにする  
 オレンジ系の増加が目立つ20年だが、増加の緑系、ピンク系、黄系は3%前後で推移している  
 茶系、紫系、赤系はそれぞれ、年によって大きく変化している

### 詳細な着色彩色を、増減順位と量順位から見ることにする

#### 着色彩色増減(上位)



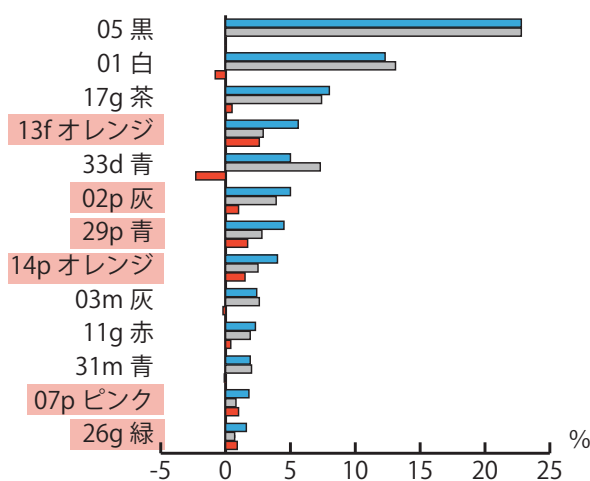
#### 増加上位に、オレンジ系、緑系が2つ登場

オレンジは目立つカラー同様、上位に登場して目立つ  
 目立つカラーにあった黄系は着色彩色ではなくなっている  
 目立つカラーのp青、pピンク、g緑は登場している  
 目立つカラーにない色ではp灰が着装として登場  
 量的には登場していないが、d緑は増加で入っている

減少で見ると、d青が1位、m茶が2位で、v赤が続く  
 ニュートラル系の白とd灰も減少となっている

### は増減、量共に上位カラー

#### 着色彩色量的に多い順(上位)



#### オレンジは量的にもリード、黒は安定

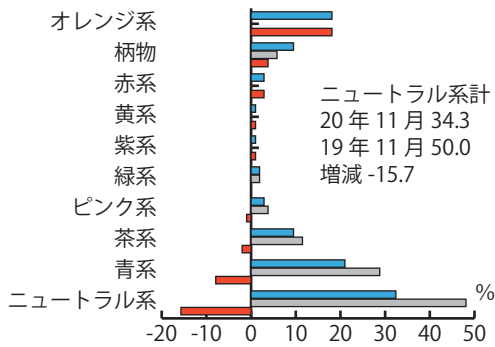
上位をトーン別に数を見ると、  
 ニュートラルが4色、pが3色、gが3色、fが1色、dが1色、mが1色となっている  
 ニュートラルでは、黒1位で安定、白、p灰、m灰が続く p灰は増加でも注目  
 多いpでは、増加と同じオレンジ、青、ピンクがリード  
 多いgでは、増加の緑、量的な茶と少し増加の赤に注目  
 1色のfオレンジでは、増加1位、量的に4位と目立つ  
 1色のd青は、量的に多いものの、増減では減少1位  
 1色のm青は、増減はなく、量的には少ない



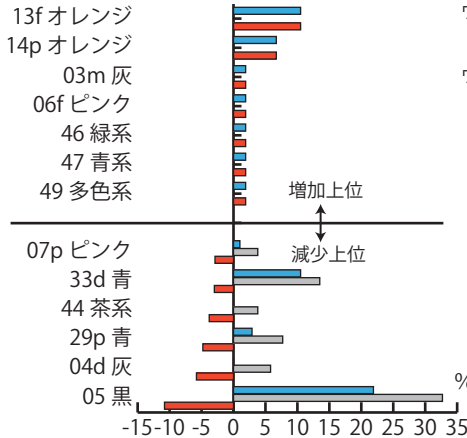
## ジャケット

色では、オレンジ系が大きく登場、赤系が続く、反対にニュートラル系が大きく減少、青系も続く  
 詳細カラーでは、薄いオレンジ系がリード、反対に、黒、ダーク灰が減少

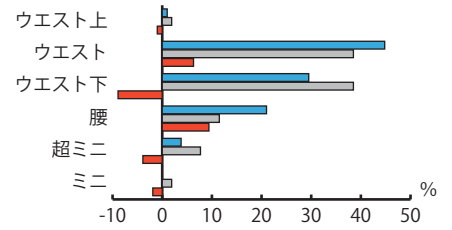
集約した色相増減 (増加順)



詳細カラー増減 (上位)



ジャケット丈



チェック、抽象、ライン



アイテムで見ると、ジャケットタイプが伸びる

着こなし: テーラード、パーカータイプ  
 その分、丈が長くなる

柄では、スカートに次いで増加したアイテムで  
 チェック、抽象、ライン縁取りが増加

テーラード プレザー



ブルゾン パーカー



レザータイプ ライダー風



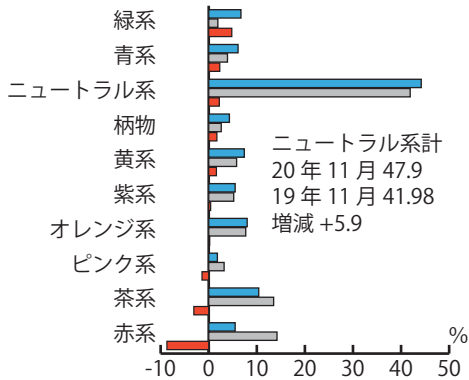
デニム



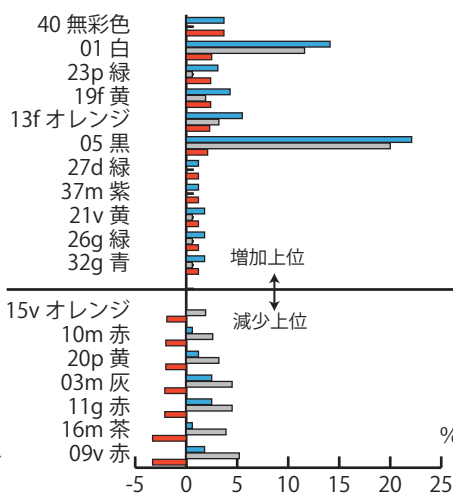
## ニット

色では、緑系がリード、青系、ニュートラル系が続く 反対に、赤系が大きく減少  
 詳細カラーでは、無彩色 (柄物)、白が伸び、鮮やかな赤、にぶい茶が減少 量的には、白、黒が共に多い

集約した色相増減 (増加順)



詳細カラー増減 (上位)



素材感組み合わせ



着こなし: ボリューム、リラックス感、  
 組織凹凸柄、素材の手触り違いの組み合わせ

アランニット (ケーブル)

ローゲージ



ボリューム感



ふわっとした、リラックスした



透け感



ビッグループ



半袖ニット

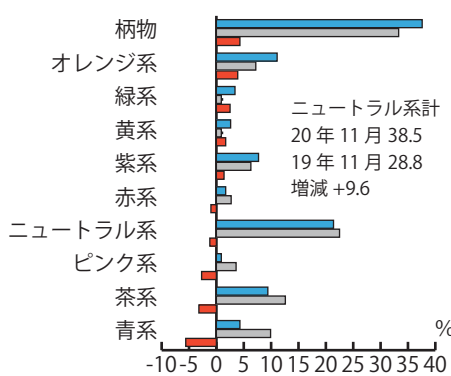




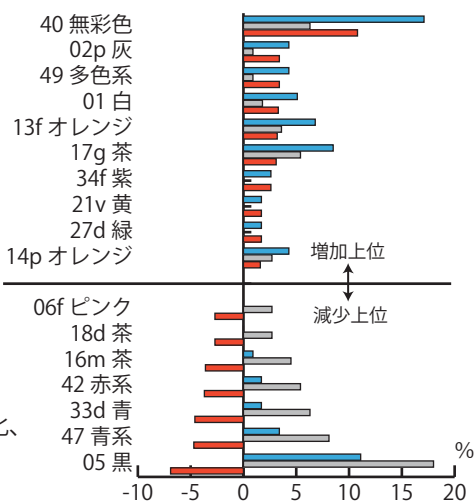
## スカート

色では、オレンジ系、緑系が増加 反対に、青系、茶系が減少  
 詳細カラーでは、無彩色(柄物)、明るい灰、白が伸びる一方、黒が大きく減少

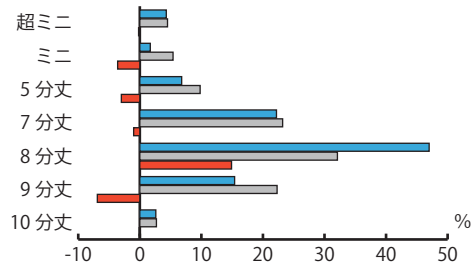
集約した色相増減 (増加順)



詳細カラー増減 (上位)



スカート丈



着こなし: ロング丈、光沢感、透け感の変化、  
 柄物でボリューム、リズム感  
 柄では、アイテム中最も増加しており、  
 チェック、小花、ストライプと多彩に登場  
 (7ページ柄参照)

チェック、小花、ストライプ



スリット



透け感



光沢感



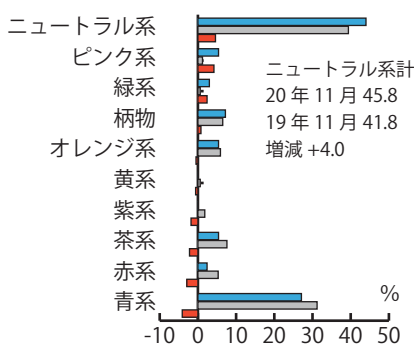
ジャンパースカート



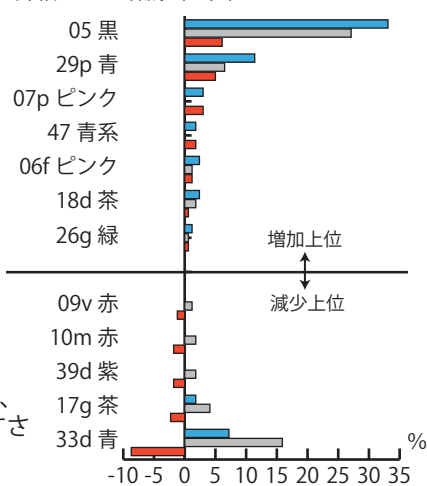
## パンツ

色では、ニュートラル系、ピンク系が増加、青系、赤系は減少  
 詳細カラーでは、黒が増加、淡い青が続く 青系でも、ダーク青は大きく減少

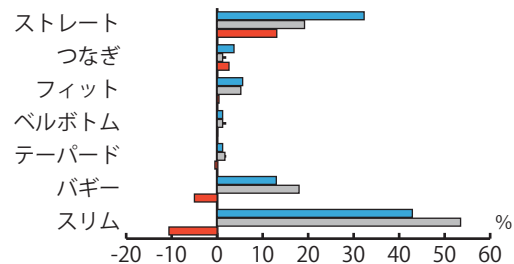
集約した色相増減 (増加順)



詳細カラー増減 (上位)



パンツ巾



着こなし: ストレート中心に、素材の変化、  
 スリット入りなど、ソフト感覚、動きやすさ  
 トップスボリューム X ボトムスフィット

スキニー、ストレート、ミニ



サロペット



プリーツ、ニット、とろみ



スリット

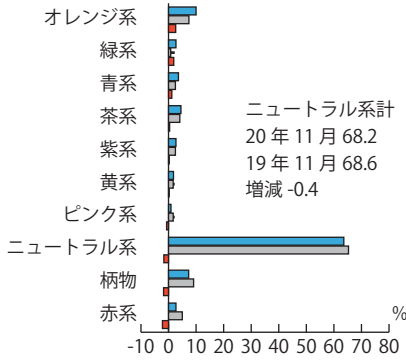




## カットソー

色では、オレンジ系、緑系が少し伸びる ニュートラル系では、明るい灰は減少も、黒、暗い灰は増加  
着こなし：ボリューム、ゆったり感

集約した色相増減（増加順）



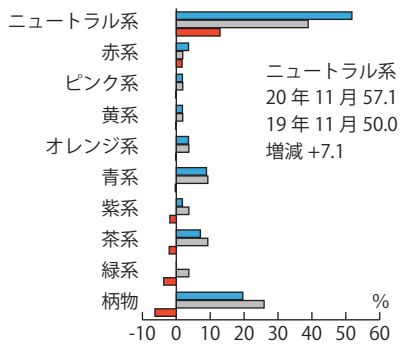
柄では、文字他が大きく減少も、文字が大きくなって、より目立つようになっている (7ページ柄参照)



## ブラウス

色では、ニュートラル系が大きく増加（白がリード） 柄物は無彩色、青系の減少による  
着こなし：襟のフリル、リボン効果、裾出し、リラックスした

集約した色相増減（増加順）



柄では、小花、水玉など小さい方向が多く、反対に、中花、チェックが減少 (7ページ柄参照)

リボン、フリル



ゆったり、ラフ感



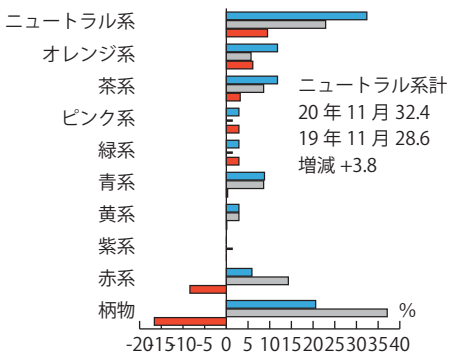
小花、水玉



## ドレス

色では、ニュートラル系、オレンジ系が増加 赤系が減少 柄物が大きく減少  
ニュートラル系の中では、黒、灰が伸び、白、無彩色（柄物）は減少  
着こなし：7分丈、ミニ、すそ広がり

集約した色相増減（増加順）



柄では、小花が減少するも、大花チェックが伸びる (7ページ柄参照)



チェック、大花

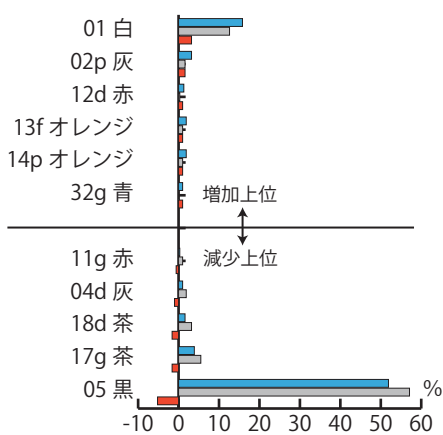


**靴**

色を詳細カラー増減で見ると、白、明るいグレーが増加、反対に、黒が減少  
靴タイプでは、パンプスとショートブーツが増加、スポーツ靴、ひも靴が少し減少

**靴カラー**

詳細カラー増減 (上位)



(ニュートラル系計 20年11月 74.2  
19年11月 75.5 増減 -1.3)

光沢感



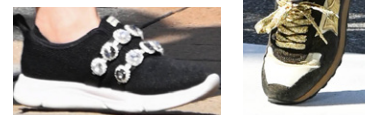
色アクセント



厚底



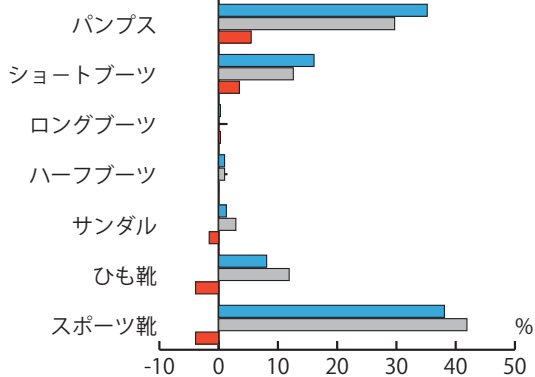
装飾飾り、遊び心



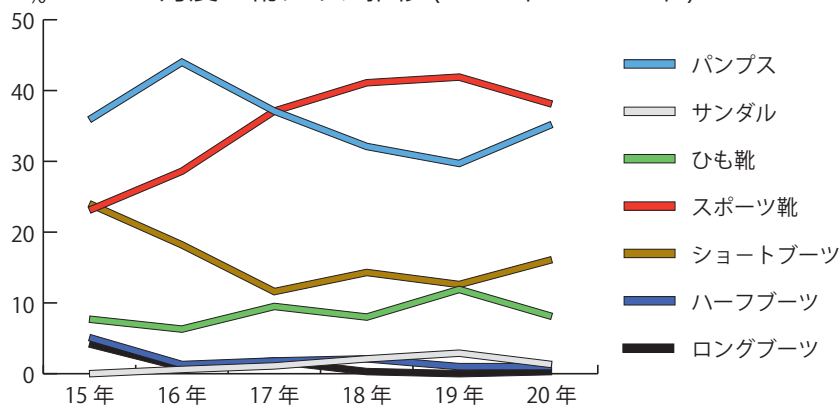
素材ミックス



**靴タイプ**



11月度 靴タイプ推移 (2015年～2020年)

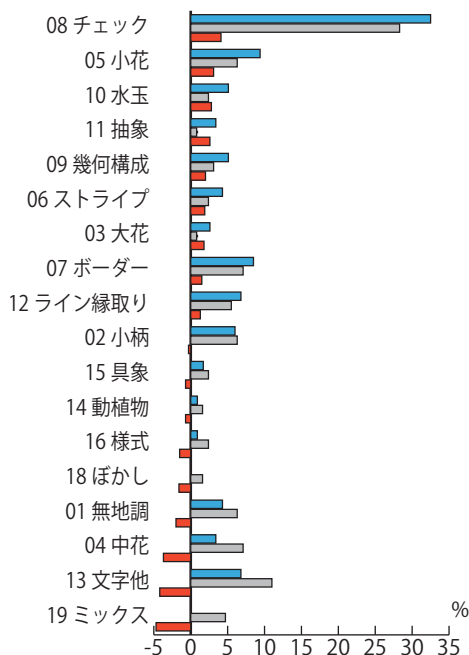


**柄**

増加アイテムはスカートが大きく増加、ジャケットが続く、反対に、ドレス、カットソーが減少  
柄では、チェックが増加、量共に目立つ 小花、水玉が続く

下記チャートの見方

アイテム毎の柄増減がわかり、例えば、ブラウスは小花が増加、チェックは減少など  
上下は柄の増加順、左右はアイテムの増加順、中央の白部分は数値が少ない部分で、省略したがって、計の数値が合わないのは、白部分に少数の増減があるため



増減	スカート	ジャケット	ブラウス	セーター	パンツ	ドレス	カットソー	計
チェック	2.9	1.8	-2.9	0.9		1.8		4.1
小花	2.8		2.6			-2.2		3.1
水玉	1.0		1.7	0.9				2.8
抽象		1.7			0.9			2.6
幾何構成				0.9	0.9		0.9	2.0
ストライプ	2.6		0.9					1.9
大花	1.7					0.9		1.8
ボーダー	1.7			0.9				1.5
ライン縁取り	0.9	1.7		0.9				1.3
小柄			0.9		0.9			-0.3
具象		0.9						-0.7
動植物	-1.6				0.9			-0.7
様式			0.9					-1.5
無地調	0.9			-1.4	-1.6			-2.0
中花			-1.6		-1.6			-3.7
文字他							-3.4	-4.2
ミックス	-2.4							-4.7
計	9.3	5.5	0.1	-0.2	-1.4	-4.2	-4.2	

(0.8～-1.3は省略)